

## 新刊紹介

◎熱帯の森林と木材 D. ノルマン著, 濱谷稔夫校閲, 猪俣禮二訳, B 6 版, 160 pp. (本文 158 pp.) 白水社, 文庫クセジュ No. 656, 1984 年 11 月 20 日発行, 750 円。

文庫クセジュ (新書版) については大方の読者がご存知のことと思うが, 本書は No. 656 を翻訳したもので, 原著は, C. T. F. T. としてその存在と業績が広く知られているフランスの熱帯林業技術センターの研究所長もつとめた著者が, 先輩の編になる旧版 (1943) を 1970 年に全面的に書き改め, さらに 1979 年に日本語版のために一部改訂したものである。

本書ははしがき, むすびのほか 3 章から成っている。第 1 章 熱帯林 (p. 9~53) では気候の種類 (降雨林, 乾燥林, 山地林), 土地の種類 (マングローブ, 沼沢または定期的冠水地, 沿岸砂地), 人為の種類 (2 次林, 保存林) に分けて, それぞれの種類を平易に解説している。第 2 章 熱帯の育林 (p. 54~74) では, まだ技術者はやっと一世代を経ただけで, 樹種や生態的条件の複雑多様なことを考えると, ケースバイケースで取組むよりほかないと断りながらも, 森林地帯, 乾燥地帯, マングローブに大別して, 多くの事例も引用してそれぞれの育林方法を解説している。第 3 章 熱帯材 (p. 75~144) は恐らく本書のメインテーマであり, また著者の専門分野ということもあって半分近い紙数をあて, 名称, 性質, 伐出と商取引について述べたあと, 利用の項ではアフリカ産材 21 種, 他地方産材の 9 種をとりあげている。

本書の生立ちを反映して, 全体を通じてアフリカの事例, 情報が多いが, 東南アジア, 中南米のことにもふれる努力はされている。はしがきや 1, 2 章の所々にもみられるが, とくにむすびを読んで感じるのは, ややオブティミスティックに過ぎないかという印象であるが, いずれにしろ, 熱帯における森林問題に関心をもちものとして一読に値する書物であり, 何よりも買いやすい値段である。訳者は長らく林野庁の仏文資料翻訳を手がけられたというが, その手なれた訳文は, さらに畏友濱谷教授の克明な校閲をへているようで, 専門的な視点からも安心して読めるように思われる。

(浅川 澄彦)

### 【抄 録】

◎ゴムノキ材の有効利用のための生物劣化防除 (L. T. HONG, Mohd. Ali SUJAN, Tan Ah GOH and K. Daljeet SINGH: Preservation and protection of rubber-wood against biodeteriorating organisms for more efficient utilization. Malaysian Forester 45(3), 1982)

ゴム材の利用に関するセミナーが 1982 年 7 月クアラランプールで開かれたが, その時の数編の論文が最近の The Malaysian Forester に掲載された (この雑誌の実際の発行は 1982 年よりおこなわれている)。この論文もそのひとつである。

マレー半島には約 178 万 ha のゴム園があるが, ゴムノキは約 25 年でゴムの出が悪くなり更新されるので, 毎年大量の木が伐採される。かつてはこの廃材は練瓦を焼